

# 高野新聞

Vol.64



たかの  
**高野 たけし**  
無所属 39歳

逗子市議会議員（三期）  
・監査委員（議員選出）  
・議会運営委員  
・総務建設環境常任委員

## 高野たけしの活動報告

～住みやすいまちづくりに向けて～

2月24日～3月21日の日程で開催された平成24年第1回定例会において、来年度の予算案の審議を行いました。

市長から提案のあった予算総額は約345億3,400万円（一般会計：約198億4,800万円、特別会計：約146億8,600万円）となっており、特に一般会計においては過去最大規模となっています。

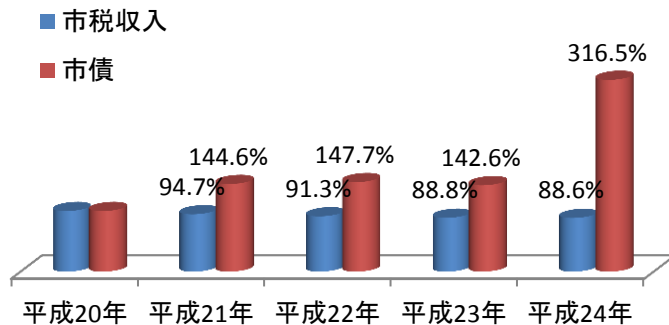
### ◆事業の取捨選択が喫緊の課題

一般会計予算における過去5年間の市税収入と市債発行額の推移を見ると、反比例していることがわかります。これは、市税収入の落ち込みを市債（借金）で補っているとも言える状況です。

このような状態を打破し、子ども達の将来につけを残さないためには、事業の取捨選択を行い、予算規模の縮小を図っていかねばならないことは言うまでもありません。そして、事業の必要性や内容を見極めるには、費用対効果を検証するとともに、市民ニーズを把握することが大事になってきます。

そこで市長に対して、平成23年度に実施した市民委員による事業評価制度を、平成24年度以降も継続して行っていくよう求めたところです。

### 一般会計予算に占める市税収入と市債の変動



上のグラフは平成20年度実績を基準として、市税収入と市債の変動を表したものです。

平成20～22年度は決算数字を、決算の終了していない平成23年度は当初予算の数字を用いています。

### 政治資金の残り あと 85,497円

(12/1～2/29の内訳)	支出…名刺代	2,604円
	ポスター掲示用広報版	3,250円
	立て看板代(3枚)	31,500円

※今後も政治資金のガラス張りは必ず続けていきます。

市民の皆様から頂いたご意見を基に私がこれまで提案してきた政策の中で、平成24年度予算に反映されたものの一部をご報告いたします。

### ◆市単での特定不妊治療費助成制度を制定

本市においても特定不妊治療に対する補助制度を制定すべき旨、市長に提言してきました。その結果、来年度から神奈川県との助成制度とリンクする形での制度がスタートすることとなりました。

今後、特定不妊治療に要した費用のうち、神奈川県からの助成額を除き5万円を上限として補助を受けることができるようになります。ただし、1年度あたり1回、通算2ヶ年までしか受けることはできません。

同様の制度を持っている自治体と比べると助成額・回数ともに薄いと云わざるを得ませんが、制度を導入できたことにはある一定の前進を感じています。

### ◆防災対策のさらなる拡充

昨年3月11日に発生した東日本大震災後、防災対策に関する市民アンケートを独自に行いました。そして、皆様から頂いたご意見を基に作成した要望書を市長に提出したところです。

すでに「海岸へのハザードマップの掲示」や「市内電柱への海拔表示」など、要望書に載せた改善策は進められてきていますが、「食糧・医薬品等の備蓄の拡充」、「津波ハザードマップの改訂」、「海岸付近道路への避難経路の掲示」などが新たに施されることになりました。

### ◆新たな買取り計画案

現在も土地開発公社所有となっている12ヶ所の土地にかかる年間の利子補給金が約4,200万円に上っています。そこで、現実的な計画を定め、公社所有地の買取りを順次進めていくよう行政当局に求めてきたところです。その結果、県の市町村振興資金貸付金を活用し公社の土地を買い取る「土地開発公社の経営の健全化に関する計画」が策定され、平成24年度から取り組んでいくこととなりました。

公有地の先行取得の必要性も薄らいできた時代背景を考慮し、今回の買取り計画終了後には土地開発公社を解散していただきたいと思っています。

## 震災から一年 ～被災地の復興を祈って～

東日本大震災から一年が経過した3月11日、逗子市内各所でも犠牲者の追悼と被災地の復興を願うイベントが開催されました。

私は逗子ビーチクラブの主催で行われた津波避難訓練に参加してきました。会場の逗子海岸西浜には100名を超える人たちが集合。

主催者から、大津波警報、津波警報が発令された時の情報発信の手段や、海岸からの避難経路についての話などがあり、参加者は真剣に耳を傾けていました。

### 【大津波警報発令時】

防災行政無線でサイレンが3秒間×3回なった後に音声がかかります。

### 【津波警報発令時】

防災行政無線でサイレンが5秒間×2回なった後に音声がかかります。

※大津波警報、津波警報発令時には西浜のマリンショップの屋上にオレンジフラッグが揚げられます。

そして、逗子海岸の西浜から避難場所に指定されている披露山へ。

134号沿いの県営駐車場の裏手から階段状になっている道を登っていくのが高所への最短ルートとなっています。海岸から約5分でかなり高いところまで到達することができます。たぶん海拔30mは超えているのではないのでしょうか。

その後逗子海岸に戻って、震災発生時の14時46分には犠牲となられた方々に哀悼の意を込めて、参加者全員で黙とうを捧げました。

また、18時から岩手県陸前高田市のガスの灯「3・11希望の灯り」から分灯された種火を使ったキャンドルナイト。

東北地方の被災地では、地震と津波で発生した大量のがれきと放射性物質の除去が遅々として進んでおらず、未だに約34万人もの人達が避難生活を強いられているとのことです。一日も早い復興のためにも、被災地以外に住む私たちがそれぞれにできる支援を継続していかなければと改めて感じたところです。



## どーなっているの？

市民の皆様からいただいたご意見・ご要望にお答えするコーナーです。

### Q1

市内を運行している全ミニバスの乗車口に補助ステップを取り付けてほしい。

この件に関して、京浜急行バスの逗子営業所に現状を伺ったところ、補助ステップの付いていない旧式バスについては後付けでの対応ができないため、車両の入れ替え時に変わっていく方向とのことでした。

バスに限らず公共交通機関は市民生活を支える大きな役割を担っています。そのため、市はバリアフリー新法に則った特定事業整備の指針を新たに作成し、事業者の協力を得ながら公共交通機関のバリアフリー化をさらに進めていく必要があると考えます。



### Q2

県道205号金沢逗子線(JR逗子駅西口側で横須賀線の脇を走る道路)の歩道の一部(久木5丁目)が非常に狭いのでガードレールを何とかしてほしい。

ご指摘のあった歩道は約100mの距離に渡って続いています。当然安全面を考慮してガードレールは設置されているのですが、当該地は一方を線路が走っているため片側だけの歩道となっており、約80cmしかない幅では双方向からの通行が非常に不便であることは容易に想像ができます。特に、ベビーカーや買物に使う手押しカートなどを押している場合は尚更です。

そこで、ポール状のガードレールにするなど、通行への支障を少しでも減らせるガードレールに変更していただきたい旨、市の都市整備課を通じて道路管理者である県に要望させていただきました。



市政に関するご意見・ご要望等がありましたらお寄せ下さい。



Tel / Fax: 046-871-7368 E-mail: takano\_zushi@yahoo.co.jp